

パブリックコメントに寄せられたご意見への回答

No	意見箇所	所在地	ご意見	回答
1	—	高浜町三明	<p>本ビジョンの検討対象範囲について</p> <p>冒頭の「生業(うみぎょう)」展開として、検討対象範囲を海・漁業だけを対象としているが、高浜町の産業形態、地勢面、面積人口規模(人口減少)を踏まえると、高浜町活性化に向けて海・漁業単独でビジョンを展開していることに疑問を感じる。漁業、農業、商工、観光、道の駅等とトータル的に町民の日常生活に密着してマッチングしていくことが、町民のウェルビーイングが実感できる幸福感・前向き感・自主自立感あふれる町づくりにつながるものと考えます。海・漁業一辺倒の議論ではなく、町内町民融和協調の観点から本プロジェクト議論内容の出发点から検討会参画メンバーの多様化も含めて改善していただきたい。</p> <p>特にここ約10年間の行政支援(投資)の漁業と農業のギャップは非常に大きな実績となっており、農業関係も含めた相互ウィンウィンとなる六次産業推進施策を進めるビジョンとなるよう道の駅再出発対応計画も含めて推進していただく切望します。</p>	<p>本ビジョンは「漁業・水産業」を核とした今後10年のビジョンとなっています。町の総合計画や今後の観光振興計画とも連動し、「海業」の根本である「漁業所得の向上と担い手の確保」を進めていきたいと思いをします。</p>
2	—	高浜町三明	<p>若狭高浜漁業協同組合の経営・運営体制について</p> <p>経営・運営母体を現状の若狭高浜漁協の形態をベースとされていますが、漁獲高見通しや消費流通市場動向調査等を踏まえた今後の漁協のあるべき姿として、身の丈に合った効率的経営体制についても議論すべきと考えます。JA福井のように、福井県全体としての漁協経営統合や京都府北部も含めた広域連携等、民間企業として効率的な経営・運営となるよう持続可能性へのチャレンジ精神を促すことによる発展的議論を期待します。</p>	<p>漁協の移転を皮切りに、大型定置網の高浜漁港入港など効率化を進めています。「高浜産」の水産物を残していくためにも、新荷捌き施設を活用しながら、継続できる体制づくりをすすめていくためのビジョン内容としています。</p>
3	—	高浜町三明	<p>水産振興ビジョンの実績評価(費用対効果について)</p> <p>これまでの評価としては、実行期自走期P17の行政支援投資の費用対効果評価が今後の持続可能性見極めとしてPDCA的にも重要ポイントとなります。この費用対効果を実施し、資料として明記すべきであると考えます。</p>	<p>既往事業の各施設の事後評価は行っています。本ビジョン関連の費用対効果は総合的な算出となりますので、今後10年の取り組み効果を注視しながら評価をしていきます。</p>
4	—	高浜町三明	<p>水産振興ビジョンの実績評価(達成できなかった項目について)</p> <p>これまでの実績で達成できなかった、未着手の項目がありますが、なぜそうなったのかについての要因分析が明記されていません。今後10年間で新ビジョンを確実に遂行していくためには、要因把握を行った上で、今後の具体的対策を講じて明記する必要があります。</p>	<p>検証し、追記します</p>
5	—	高浜町三明	<p>マリンビジョン数値目標</p> <p>行政(税金)からの投資目標額(10年間のリミットや目途)の記載がありません。また、投資費用対効果の目標数値の記載がありません。このマリンビジョンにおける概算総額の予算額(投資額)をベースとしての記載が必要と考えます。</p>	<p>本ビジョン策定にあたって国県交付金を活用しております。そのため、施設整備だけを目的にしておらず、各漁港やその周辺の活用や賑わい創出を全町的につなげていくというビジョンであり、各セクション、国や県と協議しながら進めていきます。また、各プロジェクトはその規模や投資額などはこれからの個別の議論になり、本ビジョンはあくまで、ソフト・ハードの将来方針を示すものです。</p>
6	—	高浜町三明	<p>10の重点プロジェクト</p> <p>重点プロジェクトの10年間推進工程表(各項目相互のリンケージ含む)記載が必要です。また、本プロジェクト目標達成のための重要インフラとして町内道路整備のマリンビジョンの工程と同期をとった計画的推進が必須となりますので、道路整備の具体的推進10年工程表についても記載が必要です。</p>	<p>現時点での目標実施の概略スケジュールを検討します。</p>
7	—	高浜町三明	<p>漁業六次産業推進の町民受止めを踏まえたビジョンの方向性</p> <p>最近の町民との雑談で、「魚、刺身関係は、コスト的に小浜や舞鶴に買いに行くことが多くなっている。」「ブリが大量と聞いても町民の食卓(口)には届かんあ・・。」等の会話を聞く機会が多いです。今後のマリンビジョンの町民全員の理解のある一体的活性化・推進という観点で、多くの本音を含んでいると感じています。検討に参画される方は、このような多くの町民受止めを認識していただいているのでしょうか？是非とも、この町民認識をマリンビジョンに活かしてください。</p> <p>高浜町として目指すべき姿は、六次産業プロセスの上流(魚を獲る育てる)～下流(消費者(まずは高浜町民)が満足するニーズに応える)までの一貫通貫的な市場動向調査をベースとした持続可能性のある検討が重要・基本と考えますが、本ビジョンは上流側(施設設備等への投資)先行の検討項目に偏りすぎていると感じます。</p>	<p>前述の「漁協の経営」に直結する水揚げ高を少しでも上げるための工夫として近隣の市場ニーズや動向のもと、出荷分配をしております。「高浜産」を残すため+「高浜ブランド」の構築をビジョンにてうたっております。</p> <p>また、委員会は多様な立場の町民のみなさんに参加いただいております。アンケートも実施していることから、ご指摘の認識はビジョンに反映していると認識しています。</p>
8	—	高浜町南団地	<p>海辺を守り育てていく事は素晴らしいが、町の経済と人口減に対して具体的にどのようにして、プレイヤーを育て、街を活性化していくのが具体性に乏しく、かつ、水産業に焦点を当ててやる事だけで町が活性化するとは思えない。昨今のコンサルの言いなりではないか？という疑念が、ぬぐえない内容である。今現在の町の現状において、プレイヤーの不足はあからさまで、いかにプレイヤーを増やしていくかが最も重要に思えてならない。</p> <p>「魚を育て、魚を獲る→魚を売る→魚を使う」の中で、特に「魚を売る」の部分でプレイヤーが少ない。</p>	<p>「魚を売る」部分を強化していくためには、部分的なプレイヤー確保以前に、まずは、漁業所得の向上による生産の担い手確保と「売る」水産物の維持・拡充により、産業としての継続性を確保することが重要です。大型定置の乗組員については若年齢化も進んでいます。</p>

パブリックコメントに寄せられたご意見への回答

No	意見箇所	所在地	ご意見	回答
9	—	高浜町宮崎	<p>漁業に関して 漁師の収入向上には何が必要か又、現状で何が欠けているかを考えるにあたり下記の事に注目して検討する。</p> <p>①魚を多く獲る ②魚の鮮度維持対策が必要 ③セリでの魚価を高くする</p> <p>①について、自然相手であるから当然漁獲量が一定ではなく生活面において不安定である。これを解決するには養殖ではないか。漁師プラス養殖も可能である。海での養殖と陸上養殖がある。海での養殖は高浜町やおおい町でも行われている。夏季での海中酸素濃度の低下や海水温の上昇や餌の堆積物等による影響で魚が死んでしまうことがある。陸上養殖では上記の欠点は改善できる。以前、今の加工場辺りに陸上養殖プールがあったがあれでは海での養殖での欠点も改善できなくポンプの電気代などのコストで商売にならない。③の解決策は魚価の高いアワビを養殖すれば地元商店、飲食店、旅館などの目玉商品となるし年中提供でき関連の事業も増える。例えば、アワビの中華料理は高級料理として有名でありその調理人がいれば加工して冷凍しておけば旅館、飲食店で使ってもらえるし、名物料理とて返礼品やネット販売もできる。</p> <p>②について、現行で良い。</p> <p>③について、解決策は現行の方法である何%か高く買ってもらうか販売ルートを新たに作るべきだ。又、養殖の場合魚価の高いものを選択すれば良い。</p> <p>アワビの陸上養殖を実現するには、漁協の下で事業をつくり開発資金を調達すれば良いし、お金の管理は漁協がやればよい。</p> <p>陸上養殖の概要は温度調節は地下水を用い小さなポンプで水を常時循環させてコントロールし、水中酸素濃度と水の殺菌はファインバブル或いはナノバブルを使用し、アワビの排泄物と清掃は定期的に吸引して処理する。素人ではできないので、私が関与してもよいし実証実験で確認してから事業化すれば良い。</p>	<p>今後の水産業活性化、特に生産面で「養殖業」の推進も重要な取り組みのひとつと考えています。</p> <p>現在の海況変化(高水温)なども踏まえ、コスト算出もし、市場で戦っていけるような養殖魚(貝類)の選定を、研究機関、県の協力をあおぎながら、養殖事業者の方々と協議していきます。</p>
10	34ページ	高浜町日置	<p>表5-1 数値目標について</p> <p>番号3:漁業・養殖業生産量、番号4:漁業生産額、番号9:新規漁業参入者、番号10:39歳以下漁業就業者数、番号11:高浜の魚等情報発信回数について、数値目標の見直しが必要と考えます。理由は以下のとおり。</p> <p>漁業生産量は、生産努力量(人数)に依存するところが大きいと考えています。P10漁業就業者数は、就業者の高齢化などを背景に10年で112人から66人に減少しており、単純計算では約5人/年の減少が続いています。新規就業者を0人と仮定した場合、10年後には16人になる計算です。16人で目標生産量の達成は不可能かと思えます。</p> <p>漁業生産額は、上記生産量に依存する部分が大きいので、目標達成は不可能かと思えます。</p> <p>新規漁業参入者および39歳以下漁業就業者数は、目標値の根拠が不明です。漁業生産量の数値目標を達成するためには現在の就業者数66人と10年後の予測の16人の差分である50人とする必要があります。</p> <p>情報発信回数(若狭高浜漁業協同組合インスタグラム)は、2025年11月から開始されており、2~3か月程度の実績に基づいた数値目標に疑問を感じます。例えば、接触機会の増加を目指すのであれば365回としたほうが良いと考えます(接触機会の増加は、相手に親しみや好感を抱かせるのに重要な手段です)。</p>	<p>ご指摘の点については、参考にさせていただき、再度検討します。</p>
11	34ページ 40ページ	高浜町日置	<p>表5-1 数値目標(新規漁業参入者)について ①UIターン者の募集・受入体制の構築について</p> <p>新規就業者の給与補助やOJTを行う個人経営体へのOJT補助(講師料)に関する記述が必要と考えます。</p> <p>理由としては、P10漁業就業者数では、就業者の高齢化などを背景に10年で112人から66人に減少しており、単純計算では約5人/年の減少が続いていることを示しています。今後このペースで就業者が減少するか不明ですが、2023年の就業者のうち65歳以上は20人以上を占めており、新規就業者の増加は重要な課題と認識しています。</p> <p>一方で、新規就業者のOJT先(教育先)としては、漁協直営定置または個人経営体が想定されます。漁協直営定置は、漁協が運営していることから経営的な体力が大きく、個人経営体は個人のため経営的な体力が小さいという特徴があり、個人経営体でOJTを行うことはハードルが高くなります。</p> <p>新規就業者をより多く受け入れるためには、漁協直営定置のほかに個人経営体での受け入れが必要となります。しかし、上述のハードルがあることから、高浜町や漁協からの新規就業者の給与補助やOJTを行う個人経営体へのOJT補助(講師料)が必要と考えます。</p>	<p>福井県の水産カレッジの制度を活用し、カレッジ生の受け入れを行うと、受け入れ元は、個人でも漁協でもOJT補助が受けられます。</p>
12	40ページ	高浜町日置	<p>重点プロジェクト5:意欲ある担い手確保について</p> <p>個人経営体の増加に関する取組についての記述が必要と考えます。</p> <p>理由としては、漁業就業者の減少は、高齢化に伴う小型漁船漁業の減少が主な要因と考えられます。今後、漁業就業者の維持増加を目指すのであれば、新規就業者が小型漁船漁業等の個人経営体として独立していく必要があります。このために、新規就業者から個人経営体への道筋に関する基本的な取組を示す必要があると思えます。</p>	<p>新規漁業者の継続的な創業の基礎づくりとしては、大型定置網の乗組員からスタートするのが、その後のスムーズな独立につながるかと考えているので、その旨をプロジェクト5に追記します</p>
13	22ページ 27ページ	高浜町日置	<p>基本施策1:単価向上ソフト戦略 老朽化魚市場の衛生管理型施設建替</p> <p>魚市場の衛生管理型施設への移行による単価(魚価)への影響についての振り返りが必要と考えます。</p> <p>理由としては、衛生管理型施設は「消費者の安心、安全のため」「高浜産水産物の付加価値や競争力の向上のため」などを目的として全国的にみても先進的に建設されたと思えます。このため、衛生管理型施設移行前後の単価(魚価)への影響を振り返る必要があると思えます。</p>	<p>全国的な海況や水揚げ状況によって単価変動があるので、一概には言えませんが、施設整備後の全体的な単価は上昇傾向にあると考えます(※本文中に単価推移グラフ記載)。ただし、魚介類単価は、施設整備のみならず、取り扱いの仕方や衛生管理市場としての周知なども影響すると思えますので、これら複合的な取組を引き続き進めていきます。</p>

パブリックコメントに寄せられたご意見への回答

No	意見箇所	所在地	ご意見	回答
14	38ページ	高浜町日置	<p>重点プロジェクト3:流通構造改善</p> <p>上記の評価から、単価(魚価)向上の取り組みについての記述が必要と考えます。 理由としては、衛生管理型施設による生産物の取り扱い(安心安全)と生産者の神経<math>\pi</math>等を組み合わせることによって更なる付加価値の向上(単価の向上)につながり、最終的に34ページの数値目標「4漁業生産額」「5漁業所得」につながっていくものと考えます。 加えて、単価向上には高浜市場での仲買人の増加(現状大手1社)による仲買間の競合も必要と考えます。</p>	<p>今後の取組の参考にさせていただくとともに、単価向上のための販路拡大についても、高浜町として水産物のPRを引き続き進めてまいります。 市場仲買人の増加に関するご指摘については、参考にさせていただきます。</p>
15	全ページ	高浜町日置	<p>全ページについて</p> <p>資料の公表にあたっては、以下にご留意いただきたいと思ひます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字脱字</li> <li>・用語の統一</li> <li>・西暦、和暦の統一</li> <li>・色やフォント</li> <li>・図表の単位</li> <li>・ページの色調</li> </ul> <p>参考に気になった箇所にチェックを入れたものを資料として添付します。</p>	<p>参考にさせていただきます修正致します</p>
16	37ページ	高浜町日置	<p>重点プロジェクト2:漁業所得の向上について</p> <p>重点プロジェクト2:漁業所得の向上の基本的な取組概要の再考をお願いしたい。 高浜町の漁業・水産業の課題としては、「漁場環境の悪化・資源の減少」、「漁業者の減少・高齢化と新規担い手不足」、「魚価低迷」、「燃料などの経費の高騰」を背景とした「漁業所得の頭打ち」が状況にある(P30より)。 高浜町マリンビジョンの重点プロジェクトにおいて、様々な角度から海業を推進する基本的な取組概要を示されていますが、海業の出発点となるのは漁業就業者・生産物であると思ひます。 「漁業所得の頭打ち」に関する基本的な取組が重点プロジェクト2に記載されていると思ひますが、「漁業+<math>\alpha</math>」は海業の推進の観点からみると良い取組みだと思ひますが、所得向上のための「漁業+<math>\alpha</math>(副業)」は本質的な課題解決には繋がらないと思ひます。 また、漁業者の学び直し機会の創出の対象者が「やる気のある人」に限定されている点に違和感を感じます。操業の効率化、高浜の水産物の高付加価値化(鮮度保持など)や経費削減手法などは、すべての漁業就業者が知っておくべきことと思ひます。</p>	<p>当マリンビジョンによって海業としての取組みを加速させることが、10年後の漁業所得向上につながると考えております。すべてが行政支援のもと、なされるものでなく漁業者の方々や水産関係者の方々が「やってみたい」と思った取組み支援をしてまいります。</p> <p>漁業者の学び直し対象についてのご意見については、参考にさせていただき、加筆させていただきます。</p>